

◆◆◆ 令和7年度 大阪府保育所等の事故防止研修 令和7年7月7日（月曜日）10時～令和7年7月22日（火曜日）23時

#想像力の重要性
子どもの代わりにシミュレーション

保育所等における 子どもの成長と事故予防

大阪総合保育大学短期大学部 教授

中津 功一郎

次の写真の場所で

子どもたちが遊ぶ事になりました。

どんなことに気をつけますか？

この遊具で子どもたちが遊ぶとき、どんなことに気をつける？



この遊具で子どもたちが遊ぶとき、どんなことに気をつける？



経験や知識が豊富であればあるほど、

こんな疑問も同時に浮かびませんか？

子どもの年齢は？

人数は？

時間は？

保育者の人数は？

はじめに

事故の多くは「まさか」の中にある

事故報告書には「まさか」「想定外でした」という言葉が多く並びます。

実際、振り返ると「気づけたかも」ということもあります。

でも、そのときは必死だったし、いくつもの状況が重なっていた。

今日の講義は、「もっと気をつけましょう」と言いたいものではありません。

むしろ、「なぜ見えなかったのか?」「どうすれば次は気づけるか?」を考える

ための時間です。“見えにくい専門性”を言葉にしながら、一緒に“まさか”を減ら

す工夫を考えていきましょう。

年齢では語れない子どもたちの差

幼児期の子どもたちは、同じ年齢でも発達の差がとても大きい。
歩ける子、走れる子、まだふらつく子が、クラスにいることもある。
成長と発達のスピードはバラバラ。

→ だからこそ、一律の対応では事故は防げない。

『“その子にとっての安全”をどう見極めるか？』
が今日のもう一つの重要なテーマ

「見えていたはずなのに、見えていなかった」を減らすために

想定外をゼロにすることはできません。



でも、

「見えていたはずのことに気づけるようにする」工夫はできる。

今日の90分は、現場の事例や先生方の経験をもとに、

“気づける自分を増やす”ためのヒントを探っていきたいと思います。

安全対策の

はじめの一步

安全対策のはじめの一步は

想像・イメージすること

- 子どもは想定外の動きをする。
- 大人が「子どもの代わりに想像する」ことが必要。
- 知識や経験の違いは大きい
 - 経験や知識が豊富な人は、“想像する材料”を多く持っている。
 - 経験の浅い人は「事故を想像する力」が不足していることがある。



想像力は先生全員が同じではない。

たくさん見える人もいれば、見えない人もいる

「経験が浅いからイメージすることが苦手なのは、仕方ないよね」

「まだ最初だから、見ながら慣れていってね。」

もし、それが危険につながる重要な事柄や情報なら
見えなかったでは、済まされません。



観点（見るべきポイント）を知る・考える・伝える

※「経験が少ない人」や「想像が苦手な人」は特に！

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき基礎知識①

リスクとハザード

ハザード

危険のもとになる
「もの」や「状況」

ポイント：「潜在的な危険」

例

保育園の遊び場にある
鋭い角の机

(ぶつかるとケガをするかも)

例

地面に転がったおもちゃ
(つまずいて転ぶかもしれない)

「リスク」と「ハザード」

リスク

ハザードによって実際に
「ケガをする可能性」

ポイント：
「危険が現実になる確率や程度」

例

鋭い角の机がある場所で、
子どもたちが走り回っている

→ リスクが高い

例

机の角を保護するクッションを
つけて、走るのを禁止した

→ リスクが低くなる

人的要因もハザード（潜在的な危険）になる？



保育士の不足：

人数が足りないと、
全ての子どもに目が届かないこと
があります。これにより、リスク
が増します。



疲れている保育士：

注意力が低下し、危険な状況
に気づけなくなることがあり
ます。



子どもたち自身の行動：

子どもが突発的に危険な行動をすることも、リスクを引き
起こす原因になります。

例えば、急に道路に飛び出したり、他の子どもを押して転
ばせたりする行動です。

ポイント： 人的要因によるハザードも、
適切な対策やサポートでリスクを減らすことが可能

どうやってリスクを減らす？

01

ハザードを減らす

危険なものを片付けたり、安全に配慮した道具を使ったりする。

02

リスクを低くする

危険な場所での活動を制限したり、子どもに安全な行動を教えたりする。

03

人的要因のリスク
を減らす

保育士の健康や休息を重視し、人数不足を解消し、子どもたちの行動をよく見守る体制を整えることが重要です。

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき基礎知識②

リスクマネジメントと

クライシスマネジメント
(危機管理)

【日々の教育・保育】

乳幼児期の主体的な活動を尊重し支援する必要がある、
子どもが成長していく過程で

怪我が一切発生しないことは現実的には考えにくい



死亡や重篤な事故とならないように

予防と事故後の適切な対応を行うことが重要

死亡や重篤な事故とならないように

予防と事故後の適切な対応を行うことが重要

リスクマネジメント

危機管理
(クライシスマネジメント)

リスク管理（リスクマネジメント）

『何かの活動をする際に、その活動が始める前から終わった後までの、活動全般において発生しうるリスクを洗い出し整理することで、想定される損害を最小限に抑える活動』のこと。

リスク管理とは、「万が一を想定して準備をすること」
要因を明らかにして、その発生を回避したり、最小限に抑える活動のこと。

危機管理（クライシスマネジメント）

『事業の継続を脅かすような危機が発生した時に、もたらされる影響をできる限り小規模にとどめ、**危機的な状況から正常な状態へ、なるべく早く回復するための管理活動**』のこと

危機管理とは、「**何かが起こってからの備え**」

【前提】事故は必ず発生する

日ごろから不測の事態に意識を向けることで、被害を最小限化

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点①

事例を集める

園内で事例を集める

園内で事例を集めるには

【ヒヤリ・ハット報告書の導入】

小さな「ひやり」「はっ」とした場面も記録対象にすることで、
重大事故の芽を早期に発見できる。

【事故・怪我報告書の標準化】

内容を分類し、必ず記録・保管する習慣をつける。

ヒヤリ・ハットの報告の難しさについてアンケートを収集した結果

難しくない	203(44%)
園の同僚や上司の反応が心配で報告しにくい	137(30%)
保護者との関係に影響を及ぼす可能性があるため、報告がためられる	99(21%)
報告者が誰なのか明らかにわかるので、報告しにくい	75(16%)
同僚や上司が関係する場合は、同僚や上司との関係に影響を及ぼすと心配である	78(17%)
自分の評価に悪影響を及ぼすことを心配する	65(14%)
報告しても反映されないので、報告する意欲が低くなる	66(14%)
その他	7(2%)

【報告しやすい環境づくり】

負担の少ないフォーマット

- 見本をつける
- できるだけ項目を細分化
 - ※どこに何を書けば良いのか、ひと目で分かるように
- 記述式ではなく、できる限り選択式
 - ※報告する側と報告を受ける側の双方にとって、より分かりやすく、間違いがなくなり、分析もしやすい
- 付箋などのミニシート



園長やリスクマネージャーの積極的な働きかけ

- 目的を伝える
- ルール作り
 - ※ミスの報告とならないように
- 責任のある人間がより積極的に

外部から

事例を集める

こども家庭庁 教育・保育に関する報告・データベース



保育施設 事故 データベース

ホーム > 政策 > こどもの安全 > 教育・保育施設等における重大事故を防ぐための政府の取組 > 教育・保育施設等における事故情報データベース

教育・保育施設等における事故情報データベース

「教育・保育施設等における事故の報告等について」（令和6年3月22日 こ成安第36号、5教参学第39号）等に基づき、こども家庭庁・文部科学省に報告のあった事故の情報について集約・データベース化を行い、公表しています。

※事故の概要、要因分析欄等各欄の記載は、事故の報告を行った自治体によるものです。

※個別の事故情報についてのお問い合わせには応じておりません。

※データを活用しやすくするため、平成29年度から様式変更を行っております。

新様式分（平成29年度～）

- 令和5年度分（令和6年3月27日 更新）

[事故概要（PDF／1,345KB）](#) | [（Excel／461KB）](#)

[事故詳細（PDF／5,693KB）](#) | [（Excel／914KB）](#)

- 令和4年度分（令和6年3月21日 更新）

[事故概要（PDF／2,580KB）](#) | [（Excel／613KB）](#)

[事故詳細（PDF／12,367KB）](#) | [（Excel／975KB）](#)

- 令和3年度分（令和6年3月4日 更新）

[事故概要（PDF／3,185KB）](#) | [（Excel／841KB）](#)

[事故詳細（PDF／15,979KB）](#) | [（Excel／1,295KB）](#)

数千件の過去の事故報告事例が確認できる

ファイルホーム挿入ページレイアウト数式データ校間表示ヘルプ実行したい作業を入力して下さい

MS 明朝11A

B I U

折り返して全体を表示する

文字列

標準2標準どちらでも...悪い

良いチェックセ...メモリンクセル

オートSUM

フィル

クリア

並べ替えと検索と

BC1171

X

Y

Z

特定教育・保育施設等における事故情報データベース【令和4年11月28日更新】																																					
概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の状況												事故発生時の要因分析									
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の経過				診断名	事故誘因	ソフト面		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	
						人数	その他	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	死亡					負傷	負傷状況	受傷部位	1.あり			2.不定期に実施	1.定期的に実施					2.不定期に実施					
7121	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81		27	27	27		4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	-	危険箇所の見直しと対策をする。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	-	-
7122	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10	6	4			1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	雪面は状況が変わりやすく、また、場所によっても違う。事故当時もどこかが凍結して滑りやすく、気を付けていても転倒することがある、という意識が不十分だった。	気温や降雪による積雪や雪面の状況について、また、子どもたちの遊びの内容について保育教諭間で情報交換をし、安全面に関する迅速な共通理解をする。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	-	

事故詳細

準備完了

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点②

事例を分析する



分析って、なんか難しそうだ。
どうしたらいいんだろう？



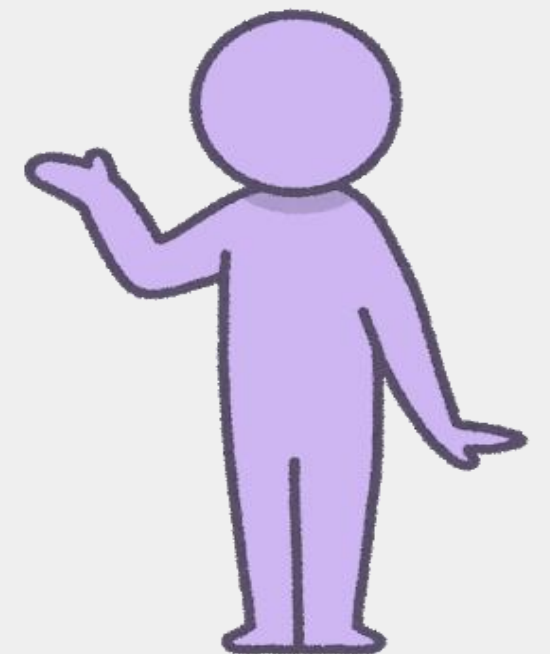
分析って聞くと難しいけど、
その本質は、分けて比べること

-目的を持って分ける。分けることで見えてくる-

分類の例)

- 時間帯
- 場所
- 年齢や月齢
- 出来事の種類
- 保育士の体調
- 出来事が起きた時の保育士の人数
- 頻度
- 重大事故へのつながりの可能性

- 午前中・昼食後・午睡後など、時間帯に関係する出来事なのか？
- 保育士さんの体調や人数との関係は？

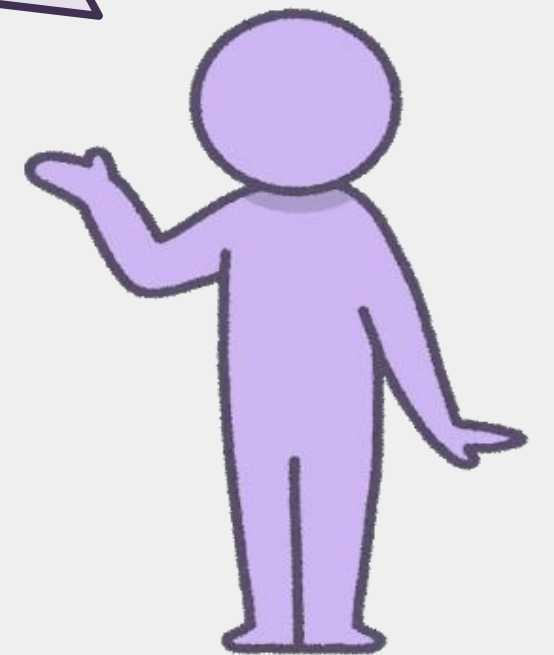


-目的を持って分ける。分けることで見えてくる-

分類の例)

- 時間帯
- 場所
- 年齢や月齢
- 出来事の種類
- 保育士の体調
- 出来事が起きた時の保育士の人数
- 頻度
- 重大事故へのつながりの可能性

- 繰り返し起きているのか？
- あまり起きないことだけど、重大な事故につながりかねないことなのか？

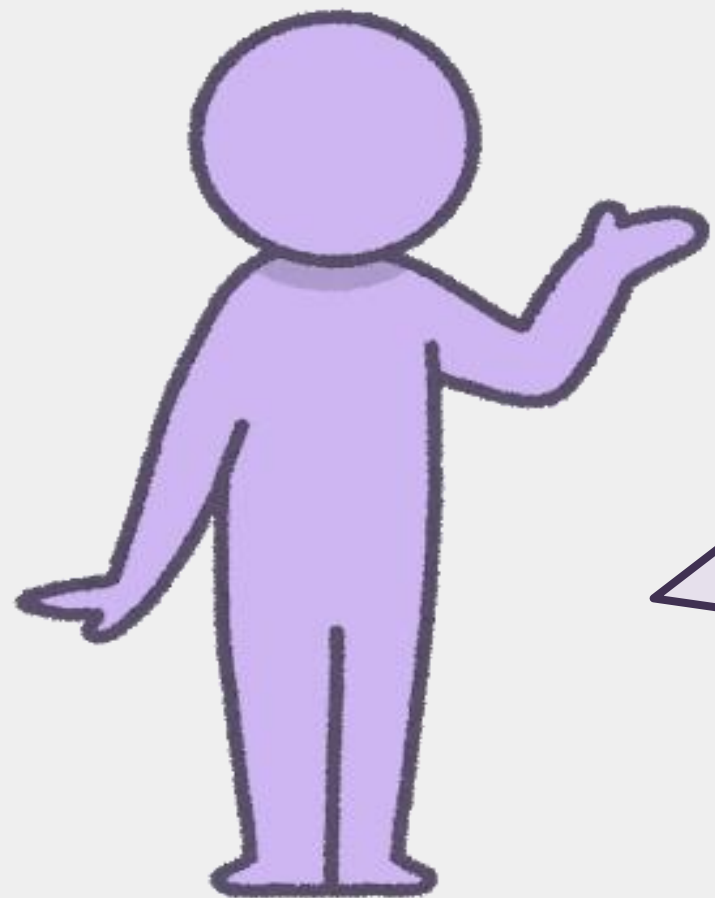


対策の検討

すべてのリスクに対策しすぎると、
子どもがのびのび成長できない～



安全対策は、
「するか」「しないか」の白黒で
判断しなくてもいいんですよ



対策の検討

- 軽減する：発生するリスクを低減したり、発生した場合の影響を軽減
- 回避する：発生しない方法を考え、選択し、リスクをゼロにする
- 受け入れる：教育的配慮を優先し、小さいながらもマイナス面のリスクを受け入れる

【補足】

園の方針については保護者にも納得のいく説明しておくことが重要になる

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点③

事例を活かす

1つの事例を参考にする場合、その状況だけでなく、
類似の状況を想像し、広げて考えることが重要

事例 ① + α

「まさか」の例

教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議年次報告（令和元年）より抜粋

年長に進級してすぐで、クラス全体が高揚していた。進級後初めての戸外活動時に、子どもたちは意欲的に遊んでいた。その環境で保育者は事前に声をかけていたが、突然、いつもは遊ばない高い雲梯に飛びつこうとするという、保育者が予見していなかった危険な行動をとって、失敗して骨折した。

<要因分析>

戸外での自由遊びという環境では、自分の興味や関心に応じて挑戦しようとする意欲が高まり、ダイナミックに遊びを展開する子どもがいる。また、進級してすぐや就学を目前にしている時期は、クラス全体が高揚し、自分の力を発揮しようと工夫したり、挑戦して、いつもとは異なる行動をとることがある。特にこのような時期の戸外での自由遊びという環境は、子どもの好奇心を引き出し、時として事故につながるような大胆な行動をとらせることがある。クラスが高揚した環境での子どもの動きを十分に予見した対応ができなかったことが、事故の要因として浮かんてくる。

「まさか」の例

教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議年次報告（令和元年）より抜粋

年長に進級してすぐで、クラス全体が高揚していた。進級後初めての戸外活動時に、子どもたちは意欲的に遊んでいた。その環境で保育者は事前に声をかけていたが、突然、いつもは遊ばない高い雲梯に飛びつこうとするという、保育者が予見していなかった危険な行動をとって、失敗して骨折した。

戸外での自由遊び

- 進級してすぐ
- 就学前
- 運動会等の行事前
- 参観日
- 異年齢の交流
- 遠足（園外保育）

要因

- 自分の興味や関心から挑戦しようとする意欲
- クラス全体が高揚

子ども：
事故に繋がるような大胆な行動

- ダイナミックに遊びを展開する
- 自分の力を発揮しようと工夫したり、挑戦する

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点④

共通のイメージを伝える

今日のお散歩、川にお魚がいたり、カルガモがいるから、気をつけてね

急に立ち止まる子がいたり、
ぶつかってしまうかもな～

川をのぞき込んで、帽子や靴を
落とす子が出てくるかも～

見たくても見れない子が
出てきたりして、騒ぐかもな～
慌ててしまったり転んだりするかも？

行く前に先に伝えて、
見る時間を作ったほうがいいな！

わかりました～



子どもたちはテンション上がるだろうな～

気をつけよう！！

共通のイメージがなければ、
「気をつける」でも全然違ってくる

簡単な言葉で伝わるのは、

指示をする側とされる側お互いに
共通のイメージがある場合に限る

動線を決めておく

子どもが集まる場所 ↓
落ちやすい

取り合う

挟まる

混み合う

トイレの位置

ぶつかり合う

死角

登る？降る？

公園外にでる危険性

マットが滑りやすい

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点⑤

マニュアルの見せ方を考える

危機管理マニュアル作成のポイント (知識や経験を補う場合)

- 読者を想定し、イメージしやすいものにする。

例えば、保護者への連絡

<マニュアルでの記載例>

- ・ 事故の発生状況・医療機関の診察・検査結果・今後の受診・費用等を説明。いかなる状況の事故であっても、保育時間中に発生した事故である以上は、細心の注意と誠意をもって対応。

もうちょっとだけ工夫してみる

危機管理マニュアル作成のポイント (知識や経験を補う場合)

- 読者を想定し、イメージしやすいものにする。

例えば、保護者への連絡

<マニュアルでの記載例>

- ・ 事故の発生状況・医療機関の診察・検査結果・今後の受診・費用等を説明。いかなる状況の事故であっても、保育時間中に発生した事故である以上は、細心の注意と誠意をもって対応。

(保護者は、子どものことで不安を抱いている。子どもの状態が安心できる状況でも、話を遮ることで保護者の気分を害す恐れがある。保護者の状況を第一に考え、主張に耳を傾けること。)

危機管理マニュアル作成のポイント (知識や経験を補う場合)

■ チェックリストの活用

例えば、園外保育前の子どもの服装確認

- ジャンパーのファスナーを閉めているか
- ズボンの裾を引きずっていないか
- 袖から手が出ているか
- 帽子をかぶっているか
- フードのある服は着用していないか
- リュックにキーホルダーがついていないか
- 靴のサイズはあっているか

散歩・活動する上での安全対策例

- ジャンパーのファスナーを閉めているか
- ズボンの裾を引きずっていないか
- 袖から手が出ているか
- 帽子をかぶっているか
- フードのある服は着用していないか
- リュックにキーホルダー等がついていないか
- 靴のサイズはあっているか

ちょっとした工夫
で想像しやすく
させることも

チェックリストでは、グループ分けして
並び替えるのも見やすくなるコツ



散歩・活動する上での安全対策例

- ジャンパーのファスナーを閉めているか
- フードのある服は着用していないか
- リュックにキーホルダー等がついていないか

引っかかる
引っ張る

- ズボンの裾を引きずっていないか
- 靴のサイズはあっているか
- 袖から手が出ているか
- 帽子をかぶっているか

転ぶ
転んだ

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点⑥

やり方を変えてみる

ヒヤリハットではなく、こんな方法も？

安全対策で、多くの人が思うことは、

「失敗の数」を限りなく少なくする

方法を間違えるとこんなことも・・・

「失敗の数」を限りなく少なくする

ヒューマンエラーで事故が起きる（ヒヤッとする）



エラーが出ないように作業手順を明確にして守らせる



細かいルールで仕事がやりにくくなる・忙しくなる



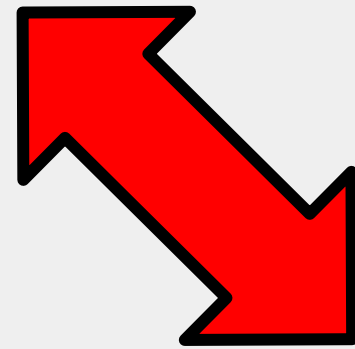
事故が起きる（ヒヤッとする）



確認等のルールを増やす



「失敗の数」を限りなく少なくする



逆にこんな発想も

「成功の数」を限りなく多くする

- ・ヒヤリハットと同じように「うまくいった事例」を収集。
- ・うまくいった事例をもとに、
前向きにミーティング・分析を行い、想像力を向上させる。
- ・職員のモチベーション（安全対策の意識）を上げることで、ヒヤリハットの収集をしやすくする。

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点⑦

子どもの成長

成長は新たなリスクを生むこともある



ジャンプが高くなった
飛び降り、転落のリスクが生じます。

高所に届くようになった
棚の物を取ろうとして落下する危険があります。

走る距離が伸びた
衝突や飛び出しの可能性が高まります。

挑戦意欲が高まった
無理な挑戦によるケガが増えることがあります。

「できるようになった」の先にあるもの



新しい能力の獲得

日々できることが増えていきます。



新たな注意点

「できるようになったから大丈夫」ではありません。



適切な対応

成長に合わせた安全対策が必要です。

良い保育の取組が生むリスク

成長を促す環境づくり

保育園では意図的に成長を促す環境を作っている。

1

安全面での想像力

その中で安全の面での想像力が必要になる場面がある。

2

リスクと成長のバランス

適切な見守りと環境設定が重要。

3

異年齢保育の場面でのリスク

【ある保育園の事例】

5歳児クラスと3歳児クラスが合同で公園に行き遊んでいました

3歳児クラスの一人が公園から出て行こうとしていることに5歳児担当の保育者が気づき、対応していた

5歳児の活動から保育者の目が離れたその間に、5歳児の一人が通常は利用しない遊具にとびのぼろうとして、落ちて骨折をした

色んなリスクがあると思うが、異年齢でよくあるリスクとして

小さい子に良いところを見せようとして普段より無理をすることがあります。

年上の子どもが真似をしてまだ難しい動きをすることがあります。

年上の子どもが小さい子への関わり方が分からず戸惑うことがあります。

意図的なチャレンジ場面



背伸びできる場の設定

成長を促すために挑戦の場をつくる



適切な見守り

チャレンジには適切な見守りが必要



環境設定

安全に挑戦できる環境づくりが重要

成長を促す保育×事故防止の両立のポイント

事前の想像

活動前に「どんな行動が出そうか？」
を想像しましょう。

バランスの取れた援助

挑戦を応援しつつ、無理をさせない環境設定
・声かけを行いましょう。

「想定外」を「想定内」へ
意識すべき観点⑧

働きかけ力

―まわりを巻き込む力―

「組織的に取り組む」で起こりがちなこと

リスクマネジメント委員会への誤解

「専門組織任せの意識」

リスクに関する事は専門組織の役割と誤解

無意識にあの人たちやってくれるはずだと安心してしまい、
現場でリスクを見逃す危険性が高まっていることがある。

⇒人任せではリスクに気が付く人、

「意識を高く持つ人」が増えない

「組織的に取り組む」

POINT

大事なことは、組織を作ることではない

リスクマネジメント委員会を立ち上げる



全員をまきこみ、
それぞれの役割を考える

「組織的に取り組む」

リスクマネジメント委員会の役割

- あくまで、共通のルールづくりやマニュアルを管理する事務局
- リスクマネジメントを正しくかつ効果的に行う体制を整え、推進する役割

リスクマネジメントは

一部の職員で定期的に会議を開くだけでは成り立たない。

報告

指示

園長・所長：リーダー

園内外にリスクマネジメントを徹底する意思を発信する

リスクマネジメント委員会

リスクマネージャー
(主任保育士など)：意思決定者

基本方針を策定し、
対応の優先順位や対応を判断する

委員(担任など)：サポーター

共通のルールづくりや
マニュアル管理、情報共有等を行う

保育士：実施者

リスクの抽出、評価、対策実施の
PDCAを行う

(参考) リスクマネジメント委員会の仕事

- 会議の開催
- 事故防止マニュアル作成・見直し
- 園長（責任者）へ報・連・相
 - ・ 取り組み提案・相談
 - ・ 事故等発生時の園長への報告・連絡
- ヒヤリ・ハット
 - ・ ヒヤリ・ハット報告の提出促進
 - ・ ヒヤリ・ハットの分析
- 事故防止対策のPDCA
 - ・ 事故防止対策の検討
 - ・ 実施する対策の周知徹底
 - ・ 対策効果の振り返り・見直し
- 研修・教育の内容検討と実施
- 設備の安全点検・修繕

本日のまとめ

想像力

想定外を出来るだけ減らす工夫

事故が起きた後、

「こうしておけばよかった」「あれを見落としていた」など、
気がついてさえいれば・・・ということが多い。

⇒ 事例研究（収集・分析・活用）により知識を増やし、経験をカバーする。

働きかけ力「全員を巻き込む力」

子どもを守ることとは一人では出来ず、
子どもに関わるさまざまな人の協力が重要になる



- 問題意識の共有
- 伝える相手目線で考える
- 共通のイメージづくり
 - 相手の理解力（知識・経験）
 - 具体的説明
 - 質問しやすい環境づくり

「研修」「ミーティング」「マニュアル」の役割

■ 事例を活用して、想像力を養う機会

「〇〇のときは～する」や「〇〇してはいけない」を覚えるのではない

■ 全員が関わり、共有する機会

※普段のコミュニケーションにも、
安全対策のヒントはたくさん転がっています。

子どもに思う存分たくさんのチャレンジをしてもらうためにも、

子どもの代わりにあらゆるリスクを想像し、

子どもの危険を減らすことを共通認識に